

斑点米カメムシの被害

- 閉花した内外穎はゆるく合わさっているため、登熟期には稃頂部に隙間があって頂部被害粒となる。
- 側部加害粒は稃鉤合部(内穎と外穎の合わせ目)への加害であり、割れ籾に多く見られる。

カメムシによる斑点米



頂部加害

側部加害

収穫期の被害状況



割れ籾はカメムシに狙われやすく斑点米が多くなる。

【参考】くさび症状



シンガレセンチュウによる被害の可能性もあるが岩手県内では確認されていない。カメムシの加害でも類似症状が発生する。

斑点米カメムシの防除

- カメムシはイネ科植物の穂を餌や産卵場所に行っているため、牧草地や雑草地、水田畦畔のイネ科植物をできるだけ出穂させないように管理し、カメムシの発生密度を抑制する。
- カメムシの水田内への侵入を防ぐため、**水稻の出穂10日前までには畦畔や水田周辺の草刈りを必ず実施する。**
- 畦畔雑草の管理は、草刈りの他に除草剤を利用することも有効である。
(畦畔に除草剤を散布する場合には、絶対、稲等の作物にはかからないように注意する。)
- カメムシは、水田内のヒエ、ホタルイ、シズイ等にも産卵し増殖するので、これらの雑草対策も必要である。
- 薬剤防除は**穂揃期 1 週間後**に行う。(基本防除) (穂揃期：穂先が出た茎が、圃場全体の80～90%程度に達する時期)
- 以下のような場合には**穂揃期 1 週間後**および**穂揃期 2 週間後**の2回防除を実施する。
① 水田付近にイネ科植物を含んだ牧草地、雑草地等があり、カスミカメムシ類の発生密度が高い場合。
② 本田内にヒエ、ホタルイ、シズイなどが多発している場合。



畦畔のイネ科雑草は発生源



イタリアンライグラスでの繁殖が多い



水田内雑草に産卵のため集まる(ホタルイ)

その他の斑点米カメムシ類



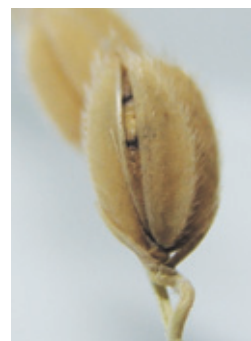
アカヒゲホソドリカスミカメ



チャイロナガカメムシ



オトゲシラホシカメムシ



割れ籾の稃鉤合部からカメムシの吸汁痕が見られる

監修・原図：岩手県病害虫防除所

岩手県病害虫防除連絡協議会

NOSAI 岩手 TEL019-651-1411



岩手県における主な斑点米カメムシの生態

【アカスジカスミカメ】

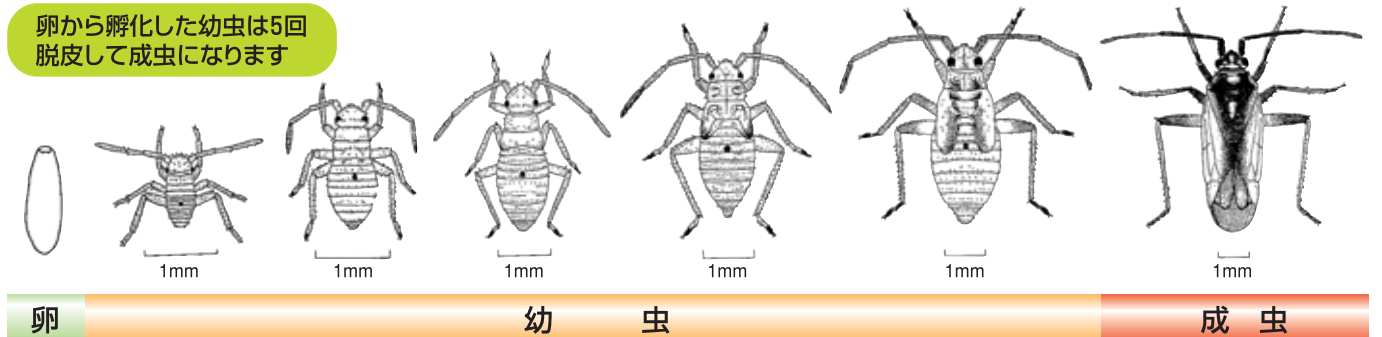
触覚は赤色

前胸背の両側から前翅会合部に続く太い縦条は橙赤色

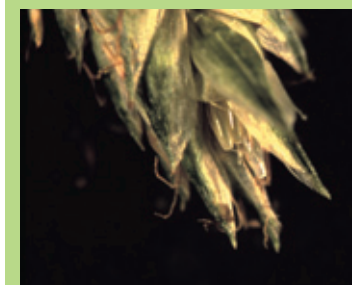
腿節は赤い

成虫の体長は4.6～6mm

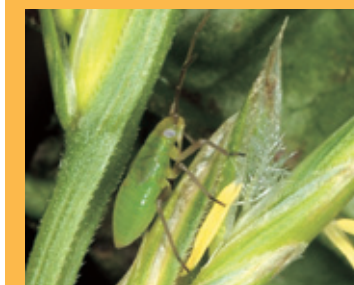
卵から孵化した幼虫は5回脱皮して成虫になります



原図 林英明氏(広島県立総合技術研究所農業技術センター)



卵はイネ科植物の穎花内に産み付けられる。最近、本田雑草のイヌホタルイやシズイにも産卵されることがわかってきた。アカスジカスミカメは卵で冬を越す。



小さな幼虫はアブラムシとよく似ているが、尾角が無いことでアブラムシと区別できる。幼虫も斑点米の原因となることがわかっている。



アブラムシには尾角がある

生活史

水稻加害期間

